

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370500449		
法人名	社会福祉法人 悠和会		
事業所名	認知症共同生活介護「銀河の里」(ユニット2)		
所在地	岩手県花巻市幸田4-116-1		
自己評価作成日	平成23年10月20日	評価結果市町村受理日	平成24年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0370500449&SCD=320&PCD=03
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成23年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

銀河の里は農業を基盤にしています。田んぼや畑作業を通して、グループホームの高齢者、スタッフだけでなく、併設の就労支援事業所(B型)のワーカー(利用者)、デイサービスの人たち、特別養護老人ホームの人たちと交流をもつ機会が多くあります。高齢者、若者が混ざり合いながら生活していて、一つ一つの出会いを大事にしながら暮らしています。
特に毎年恒例行事である田植え、稲刈りでは、若いスタッフやワーカーが高齢者からのアドバイスをもらったり、一方で若者の作業を見ることで高齢者も一緒に、普段施設では見せない表情や行動を見せてくれます。そのような世代を超えた出会いを大切にし、個を尊重した暮らしを提供できるよう尽力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地の中に、同法人のグループホーム・デイサービス・特別養護老人ホーム・障害者授産施設の利用者や職員が農作業を通して共に生き、共に生活している。グループホームにデイサービスの利用者が普通に訪問し、グループホームの利用者がデイサービスを訪れる。同じように特別養護老人ホームや授産施設のワーカーと連携を図りながら一つのコミュニティを成している。ハウスに苗の成長を確認に行く利用者や、稲刈りでは車椅子の利用者も参加して稲刈りしている。地域の高齢者のように自由に他の利用者や職員と交流できる環境は、田園風景の中の昔ながらの里の生活が継続されているようにも思える。グループホーム内を猫が自由に出入りをして、それを利用者が喜んで迎え入れ、職員が穏やかに見守っていた。利用者が希望する時には、日に32回外出した記録もあるように、利用者の個を大切に支援を法人が一体になり行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	併設のデイサービス・就労支援事業所等と日常的に行き来があり、また行事等を通して、積極的に近隣や馴染みの人と交流が行なわれている。毎日のミーティングや個別のケアプラン会議でより具体的なケアとして実践できるよう計画している。	利用者一人ひとりの個を尊重した介護が行われるよう検討し、実践する中で利用者ばかりではなく、職員は利用者から教わり育てられていると、実感している。グループホーム・授産施設・特別養護老人ホーム・デイサービスの利用者や職員が共に支えあい尊重されるコミュニティが形成されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の神社での宵宮や公民館でのしめ縄作り等、地域の行事に参加している。毎年、夏祭り・音楽祭(収穫祭)を当法人で行なっている。	収穫祭では同法人内で収穫した農産物や加工品を販売し、東和や花巻から300人位の参加があった。神社での宵宮は利用者が楽しみに参加し遅くまで楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、夏祭り・音楽祭(収穫祭)を開催し、当法人の田んぼや畑で入居者とスタッフが収穫した農産物や加工品、手工芸品を販売している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。現在の状況や行事について等、報告したり、意見交換する機会を設けている。ホームページの作成等の要望が上がり、現在更新して新しいホームページとなっている。	各事業所との交流が活発であるため、会議には各事業所の職員、利用者家族が参加し、20名くらいで開催されている。また、第三者委員・市の職員・地域代表が参加し情報交換をしている。	地元消防署員や駐在さんも時には参加していただき、防災や防犯の助言をいただいたり、利用者の顔を覚えていただける関係ができることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	花巻市及び同地域の居宅介護支援事業所や包括支援センター等とは必要時に連携がとれる状況になっている。	敷地内に同一法人のデイサービスや特別養護老人ホームもあり、居宅介護事業所や包括支援センターとの連携が常に図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には身体拘束をしていない。身体に危険が及ぶ等の危険が伴う場合は、その都度、家族と話し合いをもちながら了承を得て行なう。	広い敷地内にあるため、グループホームの職員だけではなく、法人全体で見守りが行われている。長距離を歩かれる利用者の家族にリスクを説明し、GPSを利用して自由に歩いていただけるよう工夫していた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての資料は回覧し、研修があれば積極的に参加している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム銀河の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、成年後見人制度の研修を終え、制度を利用することも可能になっている。また、併設の居宅介護支援事業所や在宅介護支援センターの協力のもと、相談があった場合は、対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約にいたる前に、重要事項説明等の資料を用い、十分な時間をかけて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口と第三者委員の設置をしている。	運営推進会議や父母の会・面会に来られた時・電話を利用して、家族とも多くコミュニケーションをとれるように働きかけている。年に一度、利用者の父母の会をホームで行い、食事をしながら家族の意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送りや毎月行なわれるケアプラン会議等で聞き取り、また必要であればその都度意見や提案を聞く体制をとっている。	職員と個別面談の機会を持ち、職員の感性を大切に、提案を反映できるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本人や主任から状況を聞きスーパーバイザーとしての理事長と職員と面談の機会を設けたり、管理者と日常的に話す機会を設けている。年度初めには本人の意向を聞き、資格取得や研修に出られるようにしている。資格手当の制度を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各事業所から事例を提出し、検討会を定期的に開催している。ケースとして、取り上げられる対象者と担当者また事業所の現状にも触れられ、自己を見つめ直す機会にもなる。その他、外部の研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の会合等に参加し情報を得ている。また、福祉関係者の見学等、受け入れをし、情報交換の機会を積極的に活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に至るまで、時間をかけ、本人や家族との面談を行なっている。また入居後は、家族の協力も得ながら、担当スタッフを中心に、根気強く話を聞く機会を作っている。言葉通りの理解だけでなく、意識下にある訴えや要望にも思いを寄せている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまで、時間をかけ、本人や家族との面談を行なっている。また、入居後も、家族関係が断たれないように支援したり、調整を行い家族の意向を理解する努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容によっては、他のサービス利用を勧めたり、他のグループホームを紹介する事も行い、必要としている支援を提供できるよう心がけている。併設の相談事業所やデイサービスの協力も得ながら相談に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	四季折々の行事や農作業を行なうことも多く、利用者がスタッフを指導する場面があったり、利用者主体となる事が多い。また、「居る」という存在から、様々な人生を伝えて貰っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等の機会には、積極的に家族の参加を促し、共通の体験の場を持ったり、また日常的にも定期的受診は原則として家族が行なうこととし、入居後も家族の協力が必要なことは多いので、話し合う機会を大切に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホームに訪問してもらいやすい環境づくりや、対応を心がけている。家族の方を呼んでの行事等の機会には、家族の参加を促している。逆に、実家訪問やお墓参り、馴染みの理容店やレストラン等にも出かけている。	夏祭りや音楽祭・ブドウ狩り・紅葉狩り・父母の会などを通して参加を呼び掛けている。また、震災地にボランティアに来ている方々を招くなど後方支援をしている。また、理髪店・実家訪問・墓参り・紅葉狩りなどなじみのある場所にも頻繁に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの個性がグループダイナミズムとして動いていることをスタッフそれぞれが理解し、寄り添い、支えていくように努めている。利用者同士の居宅訪問やお茶、同じ趣味を持つ人との外出(演劇・コンサート・居酒屋等)などを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の居宅介護支援事業所、特別養護老人ホームの協力も得ながら、継続的な支援を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日勤帯のスタッフが居室担当として2~3名を受け持つ。毎月ごとに日誌を振り返り、ケアプラン会議を実施している。困難ケースは、その都度ケース会議を開いている。	居室担当の職員が毎日利用者の状態を詳しく記入し、それを基に思いや意向の把握をしやすくしている。本人の意向の表現が困難な場合は、日常の会話やエピソードを丁寧に記録し、その中から本人の希望や意向を職員や施設長と時間を掛けて話し合い、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居についての相談時や、入居の際、家族より情報を得ている。入居後も、その都度、居室担当を中心に連絡を取り合っている。実際に暮らしたい家や生活環境を見に行くこともしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌に1日の様子と個別の記録があり、個人の様子は、個別記録に詳しく記録している。朝の申し送りでの特変等も把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケアプラン会議を、管理者、主任、部署スタッフ参加で開催し担当が1ヶ月の評価をし会議で検討。施設サービス計画書を3ヶ月に1回立てている。身体状況等の変化は家族に連絡をとったり看護師、主治医と相談し対応している。	利用者の日常の会話など丁寧に記録され、それを基に一ヶ月ごとに担当職員がまとめてケアプラン会議で話し合いを持ち、また、家族とも話し合いを持ち、プランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個別記録に日々記録している。各居室担当が1ヶ月を振り返り、評価し、ケアプラン会議で検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望で、柔軟に外出に対応したり、地域のサークル活動への参加付き添いを行なっているケースもある。介護保険外で料金を設定し病院受診を行なっている。今年度より法人に特別養護老人ホームが開設され状況に応じて対応している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム銀河の里

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望により、地域のサークル活動への参加、付き添いを行なっている。離ホーム時は、警察、消防の協力を得ながら捜索にあたる体制をとっている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは、必要な情報として、日々の日誌、バイタルチェック表や個別の食事記録等を用い連絡をとりあっている。必要なときは、スタッフが付き添い、直接相談するケースもある。	通院は家族対応が基本であるが、急な体調不良や家族の都合に対応している。東和病院や北上の専門病院・特別養護老人ホームの嘱託医を受診している。かかりつけ医とは毎日の日誌・バイタルチェック表・食事摂取量等の記録を用いて連絡を取り合っている。必要時には職員が付き添って説明・相談をすることもある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスの看護師がグループホーム入居者の健康チェックを行ったり、相談に応じている。医療連携加算体制になっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	決まった医療機関との連携はないが、入院時に付き添い、日々の状況を説明したり、退院に向けての話し合いに、家族と同行するケースもある。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	どこからがターミナルなのか判断しにくい現場では、状況に変化があった都度、家族と話し合うなど連絡を取り合い、デイサービスの看護師の協力をもらいながら、出来る限りの対応を行なっている。また、併設の特別養護老人ホームへの入居へつなげる場合もある。	入院によりグループホームを離れた時は3ヶ月は様子を見ている。利用者受け入れの際に重度化した際や、終末期の在り方について家族と話し合いを持ち、デイサービスの看護師や、併設の特別養護老人ホームと連携が図られている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の「上級救急救命講習」「防火管理者講習」等に参加し、その内容をもって、事業所内で研修を開いたりしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災発生時用に、緊急警報装置を各事業所に設置している。その他、緊急連絡網をつくり、すぐに近隣スタッフがすぐに駆けつける体制をとっている。定期的に避難訓練を実施している。※今年度はスプリンクラー設置のための工事が入る。(10月～12月)	緊急警報装置や連絡網は完備し年2回の避難訓練も実施している。スプリンクラーや、緊急通報装置が設置されている。敷地内に職員の寮があり、夜間でも数分で駆けつけられる体制となっている。	夜間想定避難訓練を実施し、寮で生活している職員が役割分担をすることで、より実用的な避難訓練となることを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の関係を大切にし、得た情報は内部にて共有し外部には漏れないように各スタッフに指導している。また個別ファイルを作り、個々の記録や情報は、2階事務所で保管管理している。	利用者の気持ちを尊重し、介護の場面でも本人が生き生きと生活できるよう常に検討している。訪問時も利用者がゆったり・のびのびと過ごされていた。利用者個別ファイルをつくり、二階に厳重に保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	他では徘徊といわれるケースも、本人にとって意味のある事ととらえ、その行動を抑えることなく、散歩と称して同行している。「何をしたいのか?」「どういう意味があるのか?」という視点を持ち関わるよう日々ケースについて検討している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎月開催のケアプラン会議で1ヶ月を振り返り、どう過ごしたいのか、本人の希望や様子から、見立てをし、スタッフ間で共有している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみのお店に同行し出かける。また、家族に協力してもらうこともある。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付け、日々の家事全般と一緒に進んでいる。台所で自身の調理をする方もいて、見守りが必要であったり、作業を共に行なったりしている。	作業台は利用者の使いやすい高さに設計され、調理や片付け買い物など、利用者と職員が一緒に行っている。法人内で収穫された野菜や米、味噌を購入したり、昼食は授産施設で調理され、おやつ作りの協力を得ている。また、利用者の嚥下能力に応じてソフト食の提供も行われている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ソフト食やミキサー食を用意したり、糖尿の方には量や調理方法を工夫したり対応している。水分を取りにくい方には、ゼリーを用意したり、水分にとろみをつけて摂取してもらっている。本人の希望により毎朝牛乳を飲む方もいる。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、朝食後、就寝前など歯磨きへの誘いをしている。歯磨きを言葉で理解できない方には、介助を行ったり、入れ歯の洗浄を行ったりしている。必要に応じて歯科受診を勧めている。			

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム銀河の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作り、個々の排泄パターンを知り、誘導している。	オムツが外れた利用者もいる。排泄誘導の声掛けはさり気なく行われている様子で、調査員も利用者がトイレに行く様子に気がつかない状況であった。自分で使いやすいように職員の提案を活かし便器に手すり支えを備え、自立しやすいように工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動不足になりがちなので、散歩や掃除、ごみ捨てなどに誘い、体を動かす機会を提供している。朝、タヨーグルトを食べたり、おやつに寒天ゼリーなどを取り入れている。健康茶、漢方薬も活用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間の目安はあるが、それぞれの希望の時間に入浴可能となっている。デイサービスの大きな浴槽や温泉に出かけて入浴を楽しむこともある。	毎日入浴している利用者が2名。利用者の気分でデイサービスや特別養護老人ホームの広いお風呂で入浴する事もある。また、利用者の希望で職員も一緒に入浴する時もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者が自分のペースで過ごせるようにリビングや廊下にソファを置いている。テラスや玄関先に椅子があったり、和室も自由に利用され、くつろげる空間となっている。日中、居室で過ごされる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日早番が服薬箱に薬をセットしている。薬と共に最新の処方箋を個々にファイルし、いつでも確認できるようにしている。病院受診や薬の変更があるときには、健康管理や個別ファイルに記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	併設の授産施設で耕作する農業に参加する機会も多く、そこを基盤とした暮らしが銀河の里の中にある。各部署の畑もある。田んぼや畑を障がい者と作業したり、見学、おやつを届けたりする中で楽しみを見出し生き生きとした表情を見せてくれる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望で毎日定時の散歩に出かける方や市のサークル活動やデイケアに参加されている方もいる。また、買い物と一緒に出かけたり、食材を選ぶ等、外出の機会があったり、地域の行事に参加したりと計画し、支援している。	安全な環境なので一人で散歩される方もいる。花巻祭りや花火大会など地域の行事はもちろん、病院のデイケアや毎日のドライブなど本人の希望にそった援助が法人内連携のもとで行われており、デイサービスの送迎バスに便乗して買い物などに出かけることもある。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム銀河の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、預かり金として管理しているが、本人の能力と希望に応じて所有したり、買い物と一緒に出かけ、個人の買い物をする方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内にある電話は、誰でも使用可能になっている。家族の理解も必要となるケースもあるが、毎日電話する方もいる。また、家族親類からモノが届いた際、お礼状を書いて返信したり、電話をしている。その際必要な支援を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やテラスからの風景が四季を感じさせてくれる。秋には敷地内にもち米のはせがけを行なったり、冬には干し柿や干し大根など季節を感じれるようにしている。リビングには写真や季節に合わせた装飾を行なっている。	小高い丘に立地されているホームのウッドデッキから広々とした田園風景が眺められ、そこで仕事をしているワーカーや職員の姿があり、猫が自由に出入りしていた。昔ながらの農村の四季の中で生活し、ゆったりとした時間を過ごされている。冬には暖炉を囲んで暖かく過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダや和室、廊下、玄関先、居室など、各場所にソファや椅子を置いたり、あえて死角の場所を作る等の工夫もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時に説明し、入居時にはなじみの物を持ってきて頂いている。入居後も必要な物を相談し、検討し、家族と相談しながら、居室作りを行なっている。	ベッドや、椅子、押入れが設置されている。ソファやタンスなど、利用者の好みのものが持ち込まれ、本人らしい生活スタイルが継続できるよう支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	備え付けの手すりのほか、現在の入居者の状況を見てトイレや浴室に後付の手すりを設置。家事場面では自然と手が伸び参加してくれる。作業として出来ないことはさりげなく援助、出来ないことも共に考え自助具、福祉用具を活用出来たらいい。		